

埼玉大学教育学部附属特別支援教育臨床研究センター

特別支援教育支援員セミナー

子どもの育ちを支える支援員の役割 ～障害理解を基盤とした 教員との連携と具体的な支援～



2026 (R8) 年7月29日 (水)



国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター

上席総括研究員 (兼) センター長 長江 清和

第1部

発達の特性(凸凹)を理解 するための模擬授業

小学生向けの内容です。
小学生になったつもりで、
授業を受けてください。

松谷くんの プレゼンテーション

・松谷くんのプレゼンテーションを
みてください。

「自分らしく学べる学校へ
松谷知直(まっや ともなお)」
(TED×KIDS@Chiyodaより)

！読み書きだけが苦手な
お友達について



2 松谷くんの思いを 体験してみよう (疑似体験)



学校でこういうことが...

- ・算数はとってでもできるのに、やさしい漢字がおぼえられない、正しく書けない。
- ・授業中にじっとしてられない。先生に指名されていないのに、発表してしまう。
- ・友だちが嫌がることをいってしまう。みんなであそぶときに、つまらないといって帰ってしまう。



3 発達の凸凹とは？



やってはいけないうことをしてしまった時の気持ちを体験してみよう
(疑似体験)



発達凹凸って何だろう？

人は誰でも、得意なことや苦手なことがあります。でも多くの人は、補ったり、時には隠したりしながら、みんなと一緒に活動しています。

しかし得意なことと苦手なことの差が大きく、みんなと一緒に活動することが苦手なお友達がいます。それは発達の凹凸があるため、頑張っても、うまくいかなかったり、みんなに迷惑をかけたりすることがあります。



発達凹凸のお友だちも、
みんなにも素敵なのがある！

できることとできないこと、やる気があることとやる気がでないこと等の差が大きいい、これが発達凹凸なので。それって「わがまま」なんじゃないの？と思うこともあるよね。

でも、そういうお友達も、みんなにも、一人一人、すてきなところがあります。

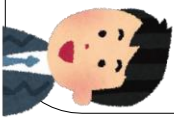
それを個性といいます。一人一人の個性が集まって、一緒に活動をする場

が学校なのです。



発達凹凸のお友達のこと 悩んでいる先生の気持ち

•あの先生だとやるのに、私だとぜんぜんやるう
としない。(嫌われているのかな…。)
•昨日はやる気があったのに、今日はぜんぜんや
る気がない。(教え方が悪いのかな…。)
•わけもなく笑ったり、ふざけたりす
る。私をわざとおこらせることをする。
(甘く見られているのかな…。)



4 発達凹凸のお友だ ちと、どうしたら、なかよ くなれる？



みんなが楽しいと思えるには、
誰とてみなかよくなること。

学校が、みんなが楽しいと思える場になるためには、学校のみんなが誰とてみなかよくなることが大切です。

発達凸凹のお友だちは、なかよくなるのが少し苦手です。お話をしたいと思っているのに、イジワルなことをいつてしまったり、遊びたいと思っているのに、イヤなことをしてしまうことがあります。そういうお友だちとなかよくなる方法を教えます。



なかよしポイント②

「むずかしい」ことにはOKサイン

- どうしても難しくて、うまくいかなかったり、失敗したりすることがあります。
- そういうときは、OK (オッケー) サインを出してあげましょう。👍
- がんばれそうときは待ってあげたり、わかるヒントやてきるコツを教えてあげましょう。
- どうしてもわからないとき、できないときは手伝ってあげましょう。



なかよしポイント①
「同じだね」をみつけてみよう

- お友だちとなかよくなるとき、それは「同じだね」がみつかったときです。
- たとえば、好きな遊び、好きなアイドルやキャラクター、興味のあること、なんてもいいです。
- 好きなこと、得意なことは、びっくりするぐらい、すごいです。
- それを共有することてなかよくなれます。



5 まとめ
(模擬授業の内容を
補足すると...)



第2部

発達障害について、もう少し詳しく学ぶための講義です。

大学生向けの内容です。
学生に戻ったつもりで、
講義を受けてください。

講義を始めるの前に

- 本日の講義の中で障害に係る用語が出てきます。注意をいただきたいことがありますので説明します。
- 障害の診断マニュアル (ICD) が、WHO (世界保健機構) から出されています。それが、ICD-10 からICD-11に改訂され、障害の概念や分類、そして障害名等の用語が変更されています。
- しかし我が国で発達障害の定義等が示されている発達障害支援法が、まだ改訂されておらず、文部科学省から出されている文書等は、ICD-10に依拠した用語等が使用されています。本資料では、文部科学省に準じた用語等を使用します。なお、今年度中にICD-11 に準拠される見込みです。

発達障害の指導は、

通常の学級の大きな課題

！ 通常の学級の中で
特別な支援を要する
児童生徒とは？

- 文部科学省の定義では、自閉スペクトラム症を除いて、発達障害は「知的障害がない」ことが前提になっています。(教育の場合は通常の学級)
- 発達障害のうち代表的な障害である**学習障害 (LD)**、**注意欠陥多動性障害 (ADHD)**、**自閉スペクトラム症**のうち**アスペルガー症候群**と**高機能自閉症**の児童生徒は、「知的障害がない」ことが前提になっているので、通常の学級に在籍をしていることが多い。そして、**通級指導教室**で通級による指導を受けている場合もあります。

特別な支援が必要な児童生徒とは

- 今、学校で授業中にこんな様子か…。
- 学習に遅れのあるAさん→授業についていけない。(知的障害？学習障害？)
- 授業中に逸脱した問題行動のあるBさん→授業に参加できていない。まわりの友達にも影響が。(ADHD？)
- 授業中に場にそぐわない言動のCさん→友達とのトラブルになることも。(自閉スペクトラム症？)



特別な支援を要する児童生徒が困っていることは何か？

- 文字を読んだり書いたりすることが苦手。
- 言葉のコミュニケーションが難しい。
- 集中力が乏しく、他に興味が移りやすい。
- 場の状況や集団のルールの理解が困難。自分勝手な行動が多い。
- 他者に思いや状況を伝えることが困難。



発達障害の子どもたち

弱い部分が顕著で生活上の不利益

- 人間には、得意な部分と弱い部分があり、**誰しもその弱い部分を抱えながら生きています**と考えたい。
- 私たちは弱い部分を社会生活を送る上で問題にならないように、補ったり隠したりしながら生きているのでは？**(社会性)** 弱いところが顕著で補ったり隠したりすることができないと、それが生活上の不利益をもたらしてしまう。**(問題行動)**
- **発達障害の子どもたち** = 私たちと同じ弱さを抱えていると捉えるべきだが、それが顕著で生活上の不利益を受けがちなので支援が必要。



発達障害の子って成長するの？

- 成長の歩みは遅いかもしれないが、障害の有無に関わらず、**子どもは教育により必ず成長する**といえる。(私の実践経験からも)
- ただし適切な教育を適切な時期に受けていなければ、「**二次的な障害**」を引き起こすことがあるので注意が必要！
- 「教えてもわからない」と思い込んで、問題行動を見て見ぬふりのは御法度！
- 少なくとも10年後を見据えて、社会的な自立を目指した指導をすることが大切！



特別な支援が必要な児童生徒、 発達の凸凹が著しい

- 特別な支援が必要な児童生徒の実態把握をすると、**発達の凸凹**が著しい。
- できることとできないこと、意欲をもつことと持てないことの差が大きい。
(できないこととしないことの見極めが難しい。)
- これって障害なの？それとも「わがまま」なの？判断に迷う、悩む。



2 発達障害とは、 発達の凸凹（講義）



発達障害とは発達凸凹、 発達の凸を見るか、凹を見るか？

- 発達障害の児童生徒を見ると、できることとできないことのアンバランスさが見られる。**(発達凸凹＝発達障害)**
- 発達の凸を見ると、これもできるのではないかと思うが、そうならないことが多い。
- 発達の凹ばかりに目を奪われると、できないことをどうしたらいいかに終始してしまい、出口が見えなくなってしまう。



発達障害の困難さと 合理的配慮の提供

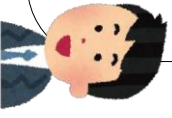
- 発達障害の困難さは、客観的に認知されにくい。(わがまま、嫉のなさ、努力と根性のなさ等と混同されやすい。本人の問題と捉えられがち。)
- 障害の特性は、同じ障害名であっても人によって現れる姿は人によって違う。
- 障害の特性から発現される困難さは人によって違うので、**合理的配慮の提供**を行う判断が難しい。

学習障害（LD）とは

3 読み書きや特定の教科等の学習に課題のある子どもの指導・支援



- ・「**どうしてできないの？**」と言われるが
の障害。（アンバランスさ）
- ・特定の教科や分野の能力が落ち込ん
てい障害。（読字障害、書字障害、算数障
害、方向音痴や左右の認知も。）
- ・ほとんどの教科や分野の能力が落ち込
んでいるのは、知的障害となりますの
で、混同しないようにしましょう。



学習障害（LD） 支援のポイント

- ・LDの子どもたちは、自分ができないこと
にコンプレックスを感じていることが多い
です。（できないと恥ずかしいので、
ごまかそうとします。）あまり追いつまず
に、少しでも取り組んだことを評価
して、自信をもたせましょう。



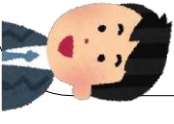
学習障害（LD） 合理的配慮の提供

- ・LDの子どもたちには、ICT機器の活用等の
合理的配慮の提供が有効です。読み書き
障害だとiPad等のタブレットPC、読みの
みだったらディスプレイ図書（教科書）の読
み上げ機能、算数障害は、タブレットPC
や電卓、ても、方向音痴に地図アプリ
の活用は練習が必要です。



注意欠陥多動性障害 (ADHD)

- 「**どうしてそういうことをするの？」**と言われるが
ちの障害。
- 不注意**（集中力がない）、**多動性**（じっとして
いられない）、**衝動性**（考えずに行動してしま
う）の三つの症状が見られる障害。（特に小
学生が多動性、中高生の衝動性が問題行動に）
- 多動性と衝動性が見られない不注意
のみの症状のタイプも。
- 多動性と衝動性を軽減する薬がある。



4 集団活動への参加や生 活面に課題のある子どもの 指導・支援



注意欠陥多動性障害 (ADHD) 注意欠陥障害 (ADD)

A	Atention	A	Attention
D	Deficit	D	Deficit
H	Hyper		
D	Disorder	D	Disorder

障害の要因となるところは同じととらえるべき。「Hyper」
への対応がなくなったととらえるべき。（**刺激の統制が有効**）

注意欠陥多動性障害 (ADHD) 支援のポイント

- ADHDの子は、いろいろな刺激に反応してしま
うので、刺激を統制することが必要です。時
にはパーテーションを活用したり、耳栓を
使用したりすることも有効です。
- 集中力が短いので、一回分の課題を少なくし
て、てきたら「おかわり」が効果的。
- 不注意の特性から、忘れ物や配布物を
無くすことが多い。確認方法の確立を。



自己肯定感と自己有用感は 必要不可欠

- ・ADHDの児童生徒は**自己肯定感**と**自己有用感**の乏しさから行動上の課題が重篤化するケースが多い。(本人、保護者の支援を含めて学校外の場合での支援も必要)
- ・**自己肯定感**、自尊心感情、自己存在感→自分に対する自己評価に基づく。(主観的な評価)
- ・**自己有用感**、自己有能感、自己効力感→他者との関係を踏まえた自己評価に基づく。(客観的な評価) ※前者も含めることが必要
- ・ADHDの児童生徒には、**ソーシャルスキルと感情のコントロールの指導**が必要不可欠。



5 対人関係やコミュニケーション、そして集団での活動にも課題のある子どもへの指導・支援



注意欠陥多動性障害 (ADHD) 合理的配慮の提供

- ・ADHDの子は、いわゆる「キレる」状態になることがあります。そういう時に落ち着けるように、静かな環境の空間を用意することが必要。(そうならない座席やグループ編制の配慮も有効、大きな集団や空間の苦手さを前提に配慮)
- ・不注意の特性から課題の未提出等が目立ちます。それを無くすために、一覧にして可視化して確認できるようにする等の対応も必要。
- ・やはり、これって障害なの？それとも「わがまま」なの？の見極めが必要。



自閉スペクトラム症 (ASD)

- ・「**空気が読めない？**」と言われるがちな障害
- ・対人関係、コミュニケーション、想像力の障害で、こだわり行動等が見られる。
- ・スペクトラムとは連続体のこと、知的障害を伴う自閉症、知的障害のない高機能自閉症、アスペルガー症候群等があり、広汎性発達障害とほぼ同じ。



自閉スペクトラム症 (ASD) 支援のポイント

- ・ASDの子どもたちに、曖昧な指示は禁物です。マルかハツか、白か黒か、YesかNoか、はっきりさせることが必要です。
- ・かわいそうかなと思うぐらいのクールな対応がちょうどいいです。「やさしい」中途半端な対応は混乱させます。



障害の特性を理解する — 自閉症の行動特徴とは —

- ⑤ 見えないものを認知することが苦手
- ⑥ 曖昧な表現の言葉の理解が苦手
- ⑦ 刺激に敏感で、嫌悪感を持つことも。
- ⑧ 他者とのコミュニケーションをとることが苦手



障害の特性を理解する — 自閉症の行動特徴とは —

- ① 常同行動、こだわり
- ② シングルフォーカス
= 多くの情報をまとめることができず、
一部のみに焦点を当ててしまい、
詳細なことにこだわってしまうこと。
- ③ スケジュールにこだわる
- ④ 聴覚認知よりも
視覚認知のほうが優位



視覚化は、自閉症への合理的配慮

- ・自閉スペクトラム症 (ASD) の特性のうち、特に「④聴覚認知よりも視覚認知のほうが優位」に対応した支援として、**視覚化**は効果的である。これは自閉症の障害に対する合理的配慮の提供にもなる。
- ・視覚認知として実物、写真、絵、シンボルマーク、文字等で、何が有効かを考えることが大切。(組み合わせも時には有効)



構造化は、自閉症への合理的配慮

- ・自閉スペクトラム症 (ASD) の特性のうち、特に「②シングルフォカス」「③スケジュールにこだわる」に対応した支援として、**構造化**は効果的である。自閉症の障害に対し合理的配慮の提供にもなる。
- ・**構造化**=今何をする時間か、次にどうなるのかなど、活動や世の中のことのしくみなどを、人に分かりやすく示す方法のこと。



構造化の具体例について

- ・**場の構造化**→場面を明確にして、活動することを明確にする。(そのために整理整頓)
- ・**意識の集中の構造化**→視覚で認知できるように支援する。さらに認知しやすい環境。
- ・**時間の構造化**→本時の流れの視覚提示
- ・**順序の構造化、回数**の**構造化**→事前に順番を明確に、取り組む回数を明確にする。
- ・**展開の構造化**→授業の展開や活動の流れを同じにし、指示無しても取り組めるように。



第3部

発達障害の専門性を踏まえて
児童生徒の指導・支援をアツプ
グレードするための講義です。

教職員向けの内容です。

今のお立場を踏まえて、
講義を受けてください。

！ 発達障害教育の専門性
を活かした指導・支援を
するために



感情のコントロールを 支援するために

- 「あなたにとって得ることか、損することか」で行動判断をさせる。(本人を主体に考えさせ、判断させる。) 他者の立場になって考えるよりも我が事と捉えられる。セルフコントロールに向かうことになる。
- ADHDの傾向だけでなく、自閉スペクトラム症(ASD)の傾向があると思われるケースでも有効。(「**シングルフォカス**」の特性がある融通の効かなさ、一つ理解しても汎用性が乏しい等の支援のために)

視覚的な支援で時系列で物事を 客観的に理解するために

- 言葉だけのコミュニケーションとらないようにする。(視覚的に認識できる支援を)
- 「心の理論」の課題から客観的に物事を捉えることが難しい。(他者の気持ちを理解して行動を調整することが難しい。)
- 時系列で展開される状況を、**ストップモーション**で状況を認識させる。
(**コミック会話法**)

「心の理論」を理解する ー 3歳から5歳の認知発達 ー

- 他者感情が理解できるか？
「サリーとアン」の課題
- 通常の発達では**3歳から5歳で通過**するが、自閉症の子どもたちには難しい。
- **第3者に自分を置き換えて**状況を把握し、他者の感情を捉えることが難しい。
- 目の前の状況に引きずられ、**時系列**で物事を捉えられない。**自己中心的**に捉える。



2 今後、さらに専門性を
向上させるために
(参考図書及びWebサイト)



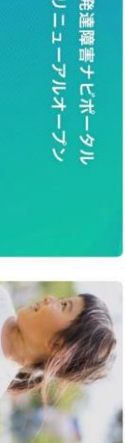
【①情報発信】 Webサイトによる情報提供

国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター

発達障害に係る教育と
福祉の連携・協働の在り方の検討



発達障害ナビポータル
リニューアルオープン



発達障害
教育推進
センター
について

ホームページ 発達障害とは 通常の学級に関わる方へ 研究・開発 お問合わせ センターについて

当センターのWebサイトを、令和8年3月2日(月)に、リニューアルしました。トップページに「通常の学級に関わる方へ」のメニューを設定して、必要な情報にアクセスしやすくなりました。

通常の学級の指導・支援に関わる皆さんへ、
信頼できる情報を発信します。Webサイトのアクセスは
NISE 発達障害 の検索ワードを入力して、クリック！

33

【②(機関連携による)情報発信】 発達障害ナビポータル



発達障害ナビポータルは、国が提供する各種情報に特化したポータルサイトです。発達障害に関する各種情報を一箇所に集約します。



- ・国が提供する発達障害に特化したポータルサイトです。
- ・発達障害に関する信頼のおける情報を提供します。
- ・厚生労働省、国立障害者リハビリテーションセンター、文部科学省、国立特別支援教育総合研究所の共同運営です。

Webサイトへのアクセスは「**発達障害ナビポータル**」の検索ワードを入力して、**クリック！**

厚生労働省 National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities 国立障害者リハビリテーションセンター 文部科学省 NISE 国立特別支援教育総合研究所

34

【③人材育成】 発達障害教育基礎セミナーの開催

令和8年度
発達障害教育基礎セミナー

＜テーマ＞

通常の学級における多様なニーズのある子供の学びの充実
国立特別支援教育総合研究所、発達障害教育推進センターでは、通常の学級に在籍する児童・生徒の学びの充実を図るために、ウェブを活用した情報提供を行う予定です。

その一環としてオンライン配信によるセミナーを開催し、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒の学びの充実について、本研究所の共同研究の成果を踏まえながら提議し、その内容について常葉大学特任教授、世森井樹氏と対談を行います。

開催期間 令和8年7月17日(金)から令和8年11月11日(月)

対象 教育関係者及び関心のある方

形式 オンライン配信

参加費 無料

内容 講演と対談内容に関する対談

時間	内容
1部 45分	講演「通常の学級における教科指導上の関心に応じた配慮」 発達障害教育推進センター 総括研究員 井上 秀和
2部 45分	対談 発達障害教育推進センター 総括研究員 井上 秀和 常葉大学教育学部 特任教授 世森 井樹 氏 講演「子供の学びの充実を図るための4観点22項目と学校事例」 発達障害教育推進センター 総括研究員 井上 秀和 常葉大学教育学部 特任教授 世森 井樹 氏

申込 発達障害教育推進センターホームページからの申込
申込期間：令和8年6月17日(火)から11月27日(金)

お問い合わせ先 nise@nise.go.jp (発達障害教育推進センターセクレタリー)

発達障害教育推進センターでは、誰でも参加できる**発達障害教育基礎セミナー**を、一昨年度から開催しています。今年度は、「通常の学級における多様なニーズのある子供の学びの充実」をテーマで行います。校内研修や校内委員会等で活用しやすいように、30分の講義と15分間の講義の内容を深める対談で45分間のパッケージで二本立てとし、オンライン配信をします。

6月中旬に、教育委員会を通して案内を送付しています。学校単位で団体申込もできますので、ぜひ校内研修等で活用してください。団体申込をすると、誰でも何回でも視聴できます(当センター

NISE
国立特別支援教育総合研究所
(National Institute of Special Needs Education)

国立特別支援教育総合研究所に
関する情報は、

<https://www.nise.go.jp/nc/>にアクセス

nise



「子どもとともに」コミュニケーション